

「図書修理ボランティア基礎講座」を開催しました

平成31年2月28日（木）に「平成30年度図書修理ボランティア基礎講座」を開催し、20名の方にご参加いただきました。

ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました！

講座では、（株）図書館流通センターの長井雅子さんから本の修理方法や、ブックコートのかけ方などを学びました。

修理方法の説明では、破損している本を使い、長井先生が普段から使用している修理道具の紹介なども含めて実際に修理するところを見せていただきました。

参加者のみなさんはメモをとるなど、熱心に聞いていました。

やぶれ、のど割れ、テープはがし、落書き等を修理する際のちょっとしたコツなども教えていただき、みなさん「なるほど～。勉強になる！」と夢中の様子でした。



ブックコートかけ体験は、初めてという方が多かったです。みなさんとてもお上手でした。

今回ブックコートをかいた本は大切にしてくださいね。

※ブックコートとは、汚れや破損を防ぐために図書館の本などにかかっている透明なフィルムのことです。

最後は、「本は壊してしまっても修理をすればいいというものではありません。状態によっては修理できないものもあります。大切なのは、修理をしなくてもいいように、本を大切に扱うということです。みなさんには、修理技術の向上はもちろん大切ですが、そもそも本を大切に扱うようにということ、繰り返し、伝えていっていただきたいです。」という長井先生のお話、皆さん真剣にうなずかれていました。

今回の講座が、参加者の皆さんが図書館や地域の学校で図書修理ボランティアとしてご活躍いただくきっかけとなれば幸いです。





【講座に参加された方の声】

アンケートより、一部をご紹介します。(原文まま記載)

- ★専門的な用語や道具の使い方が聞いて楽しかった。実践でカバーがかけれて満足！(女性・40歳代)
- ★技術的な事ばかりでなく扱い方や考え方を知る事が出来た。(女性・40歳代)
- ★図書修理に色々な方法があり大変勉強になりました。読みかけの本のあつかいなど気をつけようと思いました。(女性・50歳代)
- ★実際の修理の仕方が見れて、質問できた。便利な道具や工夫もみれてよかったです(女性・40歳代)

★図書館からのお願い★

図書館の本は市民全員の財産です。大切に扱ってください。

また、もし図書館の本を破損してしまった場合は、ご自分で直そうとせず、職員までお申し付けください。例えば、破れてしまった時にセロハンテープで修理していただくというお気持ちはとてもうれしいのですが、セロハンテープは時間が経つと劣化し、はがれてきたり、色がついてしまいます。専門の道具で修理しますので、そのままの状態でお持ちください。修理できるものはさせていただきます。修理ができないほど破損された場合は、同じ本を弁償していただく場合があります。

ご理解とご協力をお願いします。



図書修理ボランティア講座は来年度も開催を予定していますので、よろしくをお願いします。